



平成 23・24 年度に発掘調査を行ない、現在整理作業を進めている谷地遺跡の発掘調査成果を紹介する文化財展「蔵王山麓の縄文ムラ I 一谷地遺跡の発掘調査成果ー」を、7月14日から8月24日までの43日間、ございんホール展示室で開催しました。

谷地遺跡は縄文時代中期前葉(約5,500~5,000年前)の大規模な集落跡です。発掘調査は白石消防 署蔵王出張所の建設に伴うもので、遺跡全体のごく一部を対象としたものですが、竪穴住居跡など多数の遺構が発見され、縄文土器・石器など整理箱650箱に及ぶ膨大な量の遺物が出土しました。

谷地遺跡に縄文ムラが営まれた縄文時代中期は、現在よりやや温暖で安定した気候の下、豊かな森が広がっていました。各地に大きなムラが営まれ、縄文時代の中でも人口がピークに達した豊かな時期と考えられています。発掘調査では多数の食料貯蔵穴が発見され、豊かな森がもたらすドングリなどの木の実と、その貯蔵技術が縄文人の"ざおう暮らし"を支えていたことが分かります。

大きく3時期に分けられる谷地遺跡の縄文土器を 見ると、文様が複雑化して装飾性を高めていく様子



展示室前のロビーにも展示ケースを配置し、縄文土器や石器、土偶などたくさんの出土品をご覧いただきました。

が分かります。また、東北有数の出土数となる 140 点の土偶などまつりの道具も豊富に出土し、縄文人の精神性や表現力の高さを感じることができます。

出土品には東北各地の黒曜石、北陸産のヒスイや 蛇紋岩、北海道産の青虎石のほか、北陸・関東から 持ち込まれたと考えられる土器も見られ、遠く離れ た地域とも活発に交流していたことが窺われます。

展示期間中は多数の町民のほか県内外からの来場もあり、出土品の豊富さや縄文土器の迫力、縄文人の豊かな想像力への驚きの声や、「蔵王町は縄文の里だと思った」、「今後も縄文展を開催して欲しい」などの感想が寄せられました。

### ミニ特集: 谷地遺跡から見た縄文人のざおう暮らしと地域間交流



発掘調査では、住居跡や食料貯蔵穴、モノ捨て場など様々な遺構が見つかり、多量の遺物が出土しました。調査した場所は、集落の中心部に面した一角と考えられます。



住居にクリの木を利用しながら、食料としてもクリを多く食べていたことが分かりました。クリの花粉が見つかっているので、集落の周りでクリ林を管理していた可能性があります。



見つかった炭などから得られた理化学年代を、特殊な計算式で暦の年代に合わせると今から約4800~5300年前となり、 長期にわたる生活の痕跡であることが分かりました。



遠く離れた地域との活発な交流を示す遺物も多く出土しました。谷地遺跡のような地域拠点的な集落同士のつながりを介して直接・間接的にもたらされたものだと考えられます。

# 文化財 散歩道 ひかしね古墳の森林

東根地区の愛宕山丘陵には、夕向原 1号墳、古峯神社古墳の二つの前方後円墳があります。これらは円田盆地(蔵王町)と村田盆地(村田町)を見下ろす尾根の上につくられており、両地域を治めた豪族の墓と考えられます。造られた時代は定かでありませんが、古墳の形などから古墳時代中期前葉(5世紀初め・約1,600年前)と推定されています。

古墳群の周辺は東根区住民の皆さんの手によって「ひがしね古墳の森林」として遊歩道や森林の整備が行なわれ、四季折々の里山の自然観察とあわせて古墳群の見学を楽しむことができます。



雑木林の中で威容を誇る夕向原1号墳

# 発掘

## 平安時代の住居跡などを発見!

上葉の木沢遺跡

上葉の木沢遺跡は小村崎地区の丘陵上にある遺跡 です。県営ほ場整備事業 (円田2期地区) に伴う平成 17年度の発掘調査では、遺跡西端部で古墳時代の土 坑など少数の遺構が確認されましたが、遺跡の主体 部は東側の丘陵上と推定されていました。

今回、平成17年度調査地点の約100m 西側にあ る丘陵緩斜面で開発事業が計画されたことから、計 画地の地下の状況を調べる確認調査を実施したとこ ろ、平安時代(約1,200年前)の竪穴住居跡1軒など の遺構が確認されました。東側の丘陵上には平安時 代の集落跡が広がっている可能性があります。

今回確認した竪穴住居跡は、埋め戻して現状保存



平安時代の竪穴住居跡(中央・手前は新しい時期の土坑)

した上で事業が進められることになりました。

# 文化財

# 遺跡から発掘された土器の時代や、 「何干年前」のような年代はどうして分かるのですか?

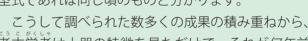
私たちに身近な洋服や自動車の

デザインと同じように、土器にも流行がありました。 時代によって作られた器の形や文様が違っているの で、考古学者はこの違いを分類して同じ特徴を持つ 土器のまとまりに「○○式土器」のように名前 (型式名)を付けて呼んでいます。

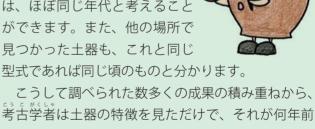
風や水の働きで運ばれた土が重なってできた地層 は普通、下のほうの深いところが古く、私たちの暮 らす地面に近い上のほうが新しい時代のものです。 この地層の中に含まれている土器もこの原則に沿っ て考えることができるので、例えば下の地層からA 式、真ん中の地層からB式、上の地層からC式の土 器が見つかれば、A式→B式→C式という土器型式 の順序が分かります。

このようにして全国のほとんどの土器に名前が付 けられ、順序が判明しています。さらに、土器の特 徴や出土した遺跡の特徴などから、どの型式の土器 が何時代に使われていたかも解明されています。

ここまで分かっても、それが「今から何年前か」 はまだ分かりません。土器や遺跡の年代を決めるに は、同じ地層に含まれている「年代が明らかなもの」 を利用するのです。例えば、木や炭は科学的な分析 によって年代を調べることがで きます。年代の判明した炭など と同じ地層から見つかった土器 は、ほぼ同じ年代と考えること ができます。また、他の場所で 見つかった土器も、これと同じ



のものか分かるようになるのです。







西浦B遺跡の貯蔵穴と出土した土器 縄文時代後期前葉の南境式(綱取川式)土器です。一緒 に出土した炭の年代測定から、この貯蔵穴と土器の年代 は今から約4,100年前と判明しました。

#### 文化財トピックス

#### 小野さつき訓導を知る

~文化財展「小野さつき訓導」・映画上映会を開催~

大正 11 年、白石川で溺れた児童を助けようとして 21 歳の若さで殉職した宮村立尋常高等小学校(現在の宮小学校)の小野さつき訓導(教諭)をテーマにした文化財展を 5 月 11 日から 7 月 1 日までの 50 日間、ございんホール展示室で開催しました。展示では小野訓導の遺品や当時の写真、新聞記事などから、殉職事故の経緯や当時の社会の様子を探りました。

展示期間中の6月10日には、小野訓導の遺徳を伝える映画の上映会をございんホールで開催。フィルムは平成27年に発見されたもので、初めての



一般公開となりました。町内外から約500人が詰め掛け、大正時代の宮地区の町並みとともに小野訓導の軌跡を描いた映画を鑑賞しました。

#### 幕末・明治維新と仙台真田氏

~特別展「真田戊辰記」・講演会を開催~

幕末に仙台藩参政を務めた真田喜平太を紹介する特別展を9月7日から11月4日までの58日間、でざいんホール展示室で開催しました。真田幸村の次男大八を初代とする仙台真田氏の9代目喜平太は、仙台藩と伊達家の政治力を高めようと精力的に違言

#### 奥平家住宅の修復工事を公開

東日本大震災で被災し、倒壊の危険が生じていた 町指定文化財 奥平家住宅で今年度、応急復旧工事が 進められています。

12月1日には現地見学会を開催し、地元小村崎地区を中心に町内外から約50人が参加しました。 工事を担当する技術者から約210年前の建築当初のまま保存されている軸組みの様子や手作業で進められる修復工事について詳しく分かりやすい解説があり、参加した人からは江戸時代と現代の職人の技に驚きの声があがっていました。



や主張を藩に伝えました。展示では喜平太による建言草稿や、自ら収集した西洋砲術や軍学に関する資料から当時の社会や喜平太の人物像に迫りました。

展示期間中の9月30日には、仙台真田氏13代当主の真田徹氏の講演会を開催。喜平太の目線から見た戊辰戦争と奥羽越列藩同盟について分かりやすくお話いただきました。



#### 最新の情報はWEBでチェック!!

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ どきをんドットコム http://www.dokitan.com

町内の歴史や文化財に関する詳しい情報や、 最新のイベントの情報などをお知らせしています。

#### 蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.002

平成 31 年(2019 年)1 月発行 [不定期発行] 蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北 10 番地 蔵王町役場東庁舎 文化財整理室内

TEL 0224-33-2328 FAX 0224-33-3831 E-Mail info@dokitan.com WEB http://www.dokitan.com